まえばし地下マップ 芳賀地区

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課
Tel.027-280-6511 令和6年3月発行

芳賀の地理的特徴

芳賀地区は赤城山南麓の斜面に位置しており、南北に長い不等辺三角形を呈しています。地形は大きく「赤城斜面」「白川扇状地面」「沖積地」の3つに分けられ、藤沢川の左岸の「赤城斜面」は主に赤城山の火山灰や泥流が堆積したことで形成されました。嶺町西部、勝沢町、小神明町が含まれる藤沢川右岸の「白川扇状地面」は赤城白川の氾濫により形成され、比較的平坦な地形になっています。

端気町の南端にあたる低地は旧利根川の河川敷にあたり、川の流れによって堆積した粘土や砂で形成された「沖積地」になっています。この沖積地では古く縄文時代から集落が形成されていたことが発掘調査によって確認されています。

芳賀地区の地形と地質

北方から伝えられた細石刃技法（さいせきじんぎほう）【旧石器時代】

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では、細石刃石器が350点以上出土しています。これはカッターナイフのような形をしており、骨や木軸に埋め込んで槍の先などとして使用されました。赤城山南麓の石器群の変遷は大きく5つの時期に分けられますが、細石刃石器は約16000年前頃の5期にあたる時期で盛んに使用されました。

細石刃石器の技法は、シベリアのバイカル湖周辺で生まれたとされています。その中でもこの遺跡に見られる細石刃技法は、楔太等を通って北から伝わった「湧別技法」（ゆべつぎほう）で作られた石器です。藤沢川と寺沢川に挟まれた舌状台地と小河川から成るこの地域は、旧石器時代の人々にとっても暮らしやすい土地であったことを物語っています。

鳥取福蔵寺遺跡Ⅱ出土の石器

多種多様な縄文土器【縄文時代】

標高130m前後に位置する五代町周辺では、縄文時代の集落が継続的に営まれていたことがわかっています。湯気（ゆけ）遺跡で草創期および前期、川白田遺跡では早期の土器片が出土しており、五代遺跡群で中期の土器・遺構を多数検出しています。この地域における縄文集落の最盛期は中期中葉頃であったと考えられており、出土した深鉢・浅鉢（ふかばち・あさばち）には多種多様な特徴が見られます。

赤城山南麓で作られた在地系の新巻類型や三原田類型をはじめ、長野県～南関東を中心に分布する勝坂式、関東北部や長野県に見られる焼町類型、千葉県に多く見られる阿玉台式、東北南部に分布する大木系の土器も多く出土しています。このようなほかの地方で見られる特徴をもった土器の出土は、この地域の人々と遠方に住んでいた人々との交流があったことを示しています。おそらく河川を辿ってやってきた人々から影響を受け、在地のものに留まらない様々な文様や装飾が土器に施されるようになっていったのでしょう。

五代深掘Ⅰ遺跡 No.2 出土遺物

空白の弥生時代

芳賀地区では弥生時代の遺構はほとんど発見されていません。弥生時代に入ると、日本では稲作が盛んに行われるようになります。稲作には水田を造るための水が必要不可欠であり、それに適した土地は水の湧く谷地などの低地になります。芳賀地区は傾斜面に位置しているため、弥生時代の人々は芳賀から低地へ移り住んだのかもしれません。

約2万4千年前 芳賀地区の人々が暮らしていたことを示す遺構が見つかっています。

約1万6千年前 前橋台地が安定化したと想定される。

3世紀後半 浅間山が噴火する（浅間C軽石が降下）。

4世紀 県内最古とされる前方後円墳の八幡塚古墳や前方後円墳の前橋天神山古墳が相次いで造られる。

6世紀 横倉山一ツ岳が2度噴火する。

大化の改新 大化の改新が始まる。各国に国司・郡司が置かれる。

701年 大宝律令が制定され、国・郡・里制が施行される。

708年 平城京遷都。

710年 上毛野国を上野国と改める。この頃、国府が成立する。

養老4年（720） 舎人親王ことねりしんのう）ら日本書紀をつくる。

延暦13年（794） 平安京遷都。

天仁元年（1108） 浅間山が噴火する（浅間B軽石が降下）。

文治元年（1185） 源頼朝が守護・地頭の設置を認められる。

文永11年（1274） モンゴルが襲来する（文永の役）。

弘安4年（1281） 再度、モンゴルが襲来する（弘安の役）。

建武2年（1335） 足利尊氏が征夷大将軍になる。

暦応元年（1338） 足利尊氏が征夷大将軍になる。

永享12年（1440） 長野宮内少輔・長野左馬助が名を連ね、戦功を挙げる。

享徳3年（1454） 足利成氏、関東管領上杉憲忠（のりただ）を謀殺し、享徳の乱が始まる。

応仁元年（1467） 京都で応仁の乱が起こる。

長尾景春、上杉氏に背き、武蔵五十子陣（いかつのこじん）を攻める。

大永4年（1524） 長尾景虎（上杉氏に属する）、武蔵五十子陣を攻める。

天文10年（1541） 長尾景虎、関東管領上杉憲忠（のりただ）を攻め、憲忠は上野国へ逃げる。

天文19年（1550） 那波宗俊（なばむねとし）が長尾景虎に反旗を翻す。

天文21年（1552） 北条氏康、武蔵国深谷城（ふかやじょう）を攻め落とし、平井城に迫ると、関東管領上杉憲政（のりまさ）、平井城を出て、上野国内を流浪する。

天文23年（1554） 北条氏康、勢内村について、長尾一那波氏の所領単位の抹決を下す。

永禄3年（1560） 長尾景虎が越後勢を率いて関東進出。那波宗俊が赤石城を攻められ、時伏する。

永禄9年（1566） 北条氏康が武田信玄の上野侵攻に対抗し、厩橋城を攻撃する。この年、越後北条高広、厩橋城に入る。

天正6年（1578） 上杉謙信が死去。その後、後継者をいい御館の乱が起こり、後北条氏による上野支配が進む。

天正10年（1582） 滝川一益（かずます）が厩橋城に入城する。「本能寺の変」で織田信長が倒れ、帰国する。越後北条高広が、後北条氏の沼田城攻略の参陣を拒否する。

天正11年（1583） 北条氏政が厩橋城に侵攻する。

天正18年（1590） 豊臣秀吉が全国を統一する。徳川東進が関東入りし、徳代分封視（とうだいぶんかんし）を厩橋城に入封させる。

慶長6年（1601） 平岩親吉が甲斐に移り、代わって川越から酒井忠世（ただよ）が厩橋城に入る。

寛永4年（1627） 酒井忠世（ただよ）が藩主となる。この頃、「厩橋」を「前橋」と呼ばれるようになる。

寛保2年（1742） 厩橋城が厩橋藩に昇格する。

宝暦2年（1752） 藩主酒井忠恵（ただすみ）が姫路に転封となり、代わって姫路の松平朝矩（ともちかの）が入封する。

明和4年（1767） 前橋城下で大火。藩主松平朝矩が川越に移城する。前橋城は幕府の分領となる。

安政6年（1859） 浅間山大噴火。各地に甚大な被害を及ぼす。

文久3年（1863） 横浜開港に伴い、前橋の生糸が活況を呈する。

慶応2年（1866） 前橋城が焼失する。大政奉還。前橋城再築が正式に許可される。

明治17年（1884） 臨江閣本館・茶室完成。

明治43年（1910） 前橋城が完成する。大政奉還。

大正時代 県内最古の前方後円墳の前橋天神山古墳が相次いで造られる。

昭和6年（1931） 浅間山が噴火する（浅間C軽石が降下）。

昭和8年（1933） 前橋台地が安定化したと想定される。

昭和9年（1934） 室田川・桂川・荒砥川・鳥川・利根川の氾濫により、前橋一帯が水没する。

昭和10年（1935） 前橋市が誕生する。

昭和16年（1941） 太平洋戦争が始まる。

昭和20年（1945） 前橋空襲。

昭和21年（1946） 日本国憲法が公布される。

昭和22年（1947） 日本国憲法が施行される。

昭和23年（1948） 前橋市が現在の市域になる。

昭和24年（1949） 前橋市が中核市になる。

昭和25年（1950） 朝鮮戦争が始まる。

昭和26年（1951） 日本が国際社会に復帰する。

昭和27年（1952） 日本が国際社会に復帰する。

昭和28年（1953） 前橋市が中核市になる。

昭和29年（1954） 前橋市が中核市になる。

昭和30年（1955） 前橋市が中核市になる。

昭和31年（1956） 前橋市が中核市になる。

昭和32年（1957） 前橋市が中核市になる。

昭和33年（1958） 前橋市が中核市になる。

昭和34年（1959） 前橋市が中核市になる。

昭和35年（1960） 前橋市が中核市になる。

昭和36年（1961） 前橋市が中核市になる。

昭和37年（1962） 前橋市が中核市になる。

昭和38年（1963） 前橋市が中核市になる。

昭和39年（1964） 前橋市が中核市になる。

昭和40年（1965） 前橋市が中核市になる。

昭和41年（1966） 前橋市が中核市になる。

昭和42年（1967） 前橋市が中核市になる。

昭和43年（1968） 前橋市が中核市になる。

昭和44年（1969） 前橋市が中核市になる。

昭和45年（1970） 前橋市が中核市になる。

昭和46年（1971） 前橋市が中核市になる。

昭和47年（1972） 前橋市が中核市になる。

昭和48年（1973） 前橋市が中核市になる。

昭和49年（1974） 前橋市が中核市になる。

昭和50年（1975） 前橋市が中核市になる。

昭和51年（1976） 前橋市が中核市になる。

昭和52年（1977） 前橋市が中核市になる。

昭和53年（1978） 前橋市が中核市になる。

昭和54年（1979） 前橋市が中核市になる。

昭和55年（1980） 前橋市が中核市になる。

昭和56年（1981） 前橋市が中核市になる。

昭和57年（1982） 前橋市が中核市になる。

昭和58年（1983） 前橋市が中核市になる。

昭和59年（1984） 前橋市が中核市になる。

昭和60年（1985） 前橋市が中核市になる。

昭和61年（1986） 前橋市が中核市になる。

昭和62年（1987） 前橋市が中核市になる。

昭和63年（1988） 前橋市が中核市になる。

平成元年（1989） 前橋市が中核市になる。

平成2年（1990） 前橋市が中核市になる。

平成3年（1991） 前橋市が中核市になる。

平成4年（1992） 前橋市が中核市になる。

平成5年（1993） 前橋市が中核市になる。

平成6年（1994） 前橋市が中核市になる。

平成7年（1995） 前橋市が中核市になる。

平成8年（1996） 前橋市が中核市になる。

平成9年（1997） 前橋市が中核市になる。

平成10年（1998） 前橋市が中核市になる。

平成11年（1999） 前橋市が中核市になる。

平成12年（2000） 前橋市が中核市になる。

平成13年（2001） 前橋市が中核市になる。

平成14年（2002） 前橋市が中核市になる。

平成15年（2003） 前橋市が中核市になる。

平成16年（2004） 前橋市が中核市になる。

平成17年（2005） 前橋市が中核市になる。

平成18年（2006） 前橋市が中核市になる。

平成19年（2007） 前橋市が中核市になる。

平成20年（2008） 前橋市が中核市になる。

平成21年（2009） 前橋市が中核市になる。

平成22年（2010） 前橋市が中核市になる。

平成23年（2011） 前橋市が中核市になる。

平成24年（2012） 前橋市が中核市になる。

平成25年（2013） 前橋市が中核市になる。

平成26年（2014） 前橋市が中核市になる。

平成27年（2015） 前橋市が中核市になる。

平成28年（2016） 前橋市が中核市になる。

平成29年（2017） 前橋市が中核市になる。

平成30年（2018） 前橋市が中核市になる。

平成31年（2019） 前橋市が中核市になる。

令和2年（2020） 前橋市が中核市になる。

令和3年（2021） 前橋市が中核市になる。

令和4年（2022） 前橋市が中核市になる。

令和5年（2023） 前橋市が中核市になる。

令和6年（2024） 前橋市が中核市になる。

令和7年（2025） 前橋市が中核市になる。

令和8年（2026） 前橋市が中核市になる。

令和9年（2027） 前橋市が中核市になる。

令和10年（2028） 前橋市が中核市になる。

令和11年（2029） 前橋市が中核市になる。

令和12年（2030） 前橋市が中核市になる。

令和13年（2031） 前橋市が中核市になる。

令和14年（2032） 前橋市が中核市になる。

令和15年（2033） 前橋市が中核市になる。

令和16年（2034） 前橋市が中核市になる。

令和17年（2035） 前橋市が中核市になる。

令和18年（2036） 前橋市が中核市になる。

令和19年（2037） 前橋市が中核市になる。

令和20年（2038） 前橋市が中核市になる。

令和21年（2039） 前橋市が中核市になる。

令和22年（2040） 前橋市が中核市になる。

令和23年（2041） 前橋市が中核市になる。

令和24年（2042） 前橋市が中核市になる。

令和25年（2043） 前橋市が中核市になる。

令和26年（2044） 前橋市が中核市になる。

令和27年（2045） 前橋市が中核市になる。

令和28年（2046） 前橋市が中核市になる。

令和29年（2047） 前橋市が中核市になる。

令和30年（2048） 前橋市が中核市になる。

令和31年（2049） 前橋市が中核市になる。

令和32年（2050） 前橋市が中核市になる。

令和33年（2051） 前橋市が中核市になる。

令和34年（2052） 前橋市が中核市になる。

令和35年（2053） 前橋市が中核市になる。

令和36年（2054） 前橋市が中核市になる。

令和37年（2055） 前橋市が中核市になる。

令和38年（2056） 前橋市が中核市になる。

令和39年（2057） 前橋市が中核市になる。

令和40年（2058） 前橋市が中核市になる。

令和41年（2059） 前橋市が中核市になる。

令和42年（2060） 前橋市が中核市になる。

令和43年（2061） 前橋市が中核市になる。

令和44年（2062） 前橋市が中核市になる。

令和45年（2063） 前橋市が中核市になる。

令和46年（2064） 前橋市が中核市になる。

令和47年（2065） 前橋市が中核市になる。

令和48年（2066） 前橋市が中核市になる。

令和49年（2067） 前橋市が中核市になる。

令和50年（2068） 前橋市が中核市になる。

令和51年（2069） 前橋市が中核市になる。

令和52年（2070） 前橋市が中核市になる。

令和53年（2071） 前橋市が中核市になる。

令和54年（2072） 前橋市が中核市になる。

令和55年（2073） 前橋市が中核市になる。

令和56年（2074） 前橋市が中核市になる。

令和57年（2075） 前橋市が中核市になる。

令和58年（2076） 前橋市が中核市になる。

令和59年（2077） 前橋市が中核市になる。

令和60年（2078） 前橋市が中核市になる。

令和61年（2079） 前橋市が中核市になる。

令和62年（2080） 前橋市が中核市になる。

令和63年（2081） 前橋市が中核市になる。

令和64年（2082） 前橋市が中核市になる。

令和65年（2083） 前橋市が中核市になる。

令和66年（2084） 前橋市が中核市になる。

令和67年（2085） 前橋市が中核市になる。

令和68年（2086） 前橋市が中核市になる。

令和69年（2087） 前橋市が中核市になる。

令和70年（2088） 前橋市が中核市になる。

令和71年（2089） 前橋市が中核市になる。

令和72年（2090） 前橋市が中核市になる。

令和73年（2091） 前橋市が中核市になる。

令和74年（2092） 前橋市が中核市になる。

令和75年（2093） 前橋市が中核市になる。

令和76年（2094） 前橋市が中核市になる。

令和77年（2095） 前橋市が中核市になる。

令和78年（2096） 前橋市が中核市になる。

令和79年（2097） 前橋市が中核市になる。

令和80年（2098） 前橋市が中核市になる。

令和81年（2099） 前橋市が中核市になる。

令和82年（2100） 前橋市が中核市になる。

令和83年（2101） 前橋市が中核市になる。

令和84年（2102） 前橋市が中核市になる。

令和85年（2103） 前橋市が中核市になる。

令和86年（2104） 前橋市が中核市になる。

令和87年（2105） 前橋市が中核市になる。

令和88年（2106） 前橋市が中核市になる。

令和89年（2107） 前橋市が中核市になる。

令和90年（2108） 前橋市が中核市になる。

令和91年（2109） 前橋市が中核市になる。

令和92年（2110） 前橋市が中核市になる。

令和93年（2111） 前橋市が中核市になる。

令和94年（2112） 前橋市が中核市になる。

令和95年（2113） 前橋市が中核市になる。

令和96年（2114） 前橋市が中核市になる。

令和97年（2115） 前橋市が中核市になる。

令和98年（2116） 前橋市が中核市になる。

令和99年（2117） 前橋市が中核市になる。

令和100年（2118） 前橋市が中核市になる。

踊る埴輪【古墳時代】

現在、前橋市立芳賀小学校にて保管されている人物埴輪は、小さな帽子をかぶり、両手を上にした男子をあらわしており、歌舞を演じる楽人をかたどったものと考えられています。

五代町中原の小古墳で出土したと伝えられていますが、確かな出土地点はわかっていません。

高さは63cm で、6世紀後半頃のものと考えられています。

埴輪・踊る男子像

芳賀の古墳

昭和10年に群馬県で一斉に行われた古墳調査の結果、芳賀地区には64基の古墳が確認されており、勝沢町のオブ塚古墳（市指定史跡）や五代町の五代大日塚古墳（市指定史跡）などが代表的なものとして挙げられます。五代大日塚古墳は、残念ながら周囲が切り崩されているため当時の形を残していません。オブ塚古墳は6世紀後半の全長35mを測る前方後円墳で、芳賀地区において最大の規模を誇る古墳です。横穴式の石室には4体の遺体が葬られていたほか、直刀や小刀・刀子・鉄鏃・耳環等の副葬品が見つかっています。現在は残っていませんが、墳丘には円筒埴輪や人物・馬・大刀等の形象埴輪が配置されていたものとみられています。

オブ塚古墳石室

五代大日塚古墳

人物名が刻まれた紡錘車（ぼうすいしゃ）【平安時代】

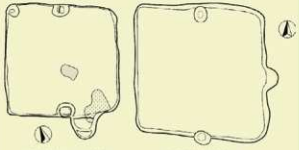
芳賀東部団地遺跡出土の線刻紡錘車

芳賀東部団地遺跡では、糸を紡ぐために使われた紡錘車に文字や線が刻まれているものが見つかりました。H-61号住居からは「勢多郡□（榻）　五百□郡□（厨）」と読めるものが出土しており、「勢多郡」は『和名類聚抄』に見られる勢多郡を指し、続く不明確な「榻」と見られる字は渡来人の姓と考えられています。さらにその後に続く「五百□郡□」はその榻氏の名と見られています。また、H-77号住居からは「春日部国廳」という人物の名が見え、この人物についての詳細は不明ですが、春日部姓は6世紀頃に安閑天皇の名代として置かれたものとされています。春日部姓はこれまで県内の文献等では記されていませんでしたが、この資料によってその存在が確認されました。

これらの線刻紡錘車は、税として納める調布に使用されたため、その郷戸主（ごうこしゅ）の名前等が刻まれていると考えられており、渡来人の榻氏は機織りの技術をもたらした人物の一人と見られています。このような背景から、この地域が律令制の中に組みこまれていたことがわかり、地形から見ても、養蚕や機織りが盛んな場所であったことが想像できます。

遺構覆土に浅間Ｂ軽石を含む竪穴建物跡【中世】

五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡では、浅間Ｂ軽石が覆土内に認められた竪穴建物跡を検出しています。浅間Ｂ軽石は1108年（天仁元年）に浅間山の噴火によって降下した火山噴出物の軽石です。類例は多くありませんが、竈に似た張出を持つものとそうでないものも、焼土や灰・粘土を含むものとそうでないものとで4分類され、張出についての性格は明らかになっていません。柱穴は古代の竪穴建物跡のように四隅にあるのではなく、壁面に2つのみ設けられています。高崎市の下佐野遺跡寺前地区や伊勢崎市の下淵名塚越遺跡Ⅳ区でよく似た形状の遺構が確認されており、これらは館跡に付随する14世紀頃の遺構と判断されています。五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡で見つかったものについても近い時期のものであることが考えられています。


五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ遺跡 H-9号住居跡

下佐野遺跡寺前地区 1号館跡方形遺構